

科目名				授業の種類	授業担当者	
健康指導法				演習	渡邊 伸	
学科	学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	必修・選択
保育科	1	1	30	15	後期	必修
[授業の目的・ねらい] ＜もう一つの＞健康理解を目指して、自身の身体を感覚することを学ぶ						
[授業全体の内容と概要] 人が感じる自身の身体について、＜もう一つの＞視点から理解することによって、自身の身体のみならず他人の、特に子供の身体を理解することによって新しい自分を発見する。						
[受講上の注意事項] 各講義は、理論的ではなく、自身の類似の経験から理解してください。						
[使用テキスト] なし				[評価基準] レポート(毎回)による評価		
[授業の日程と各回のテーマ・授業内容]						
回	項目		授業内容			
1	野生児の研究		人は、人間社会のなかで育って初めて人間になることができる			
2	ことば以前のコミュニケーション		母親と赤ん坊のコミュニケーションを探る			
3	居るだけの医者		人がそこに居るだけで癒される			
4	動物とのコミュニケーション		象や豹とのコミュニケーションの現実			
5	日本人のしぐさ		すてきな日本人になるために			
6	自分の身体		成長に伴って気になる自分の身体			
7	食事と身体		過食症と拒食症は感覚の狂いか			
8	痛みについて		痛む身体の現実			
9	幻肢		なくした腕が痛む、かゆいなどの感覚を持つことがある			
10	めまい		まぐるめくめまい、恍惚のめまい、めまいの人を探る			
11	乳幼児期の融合感覚		生まれて間もない子供の感覚世界を探る			
12	0歳児の運動発達		生まれてから立つまでに発生する運動の意味を探る			
13	子供の関心を引き出す		場に＜なじむ＞ことの大切さについて			
14	子供の感覚世界の形成		子供は小さな大人ではない			
15	まとめ		身体の感覚がつくる生活世界			